

「農林水産省とれたてニュース」



<https://www.facebook.com/zyukyu.jouhou>



病害虫の発生はありましたが、
駆除できました。

0:27



Bapak TAKAI

放射性セシウムに関する情報について

農林水産省のホームページ（東日本大震災に関する情報）をご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/>

携帯電話用ホームページ

<http://www.maff.go.jp/mobile/>



広報誌aff(あふ)の 感想をお聞かせください

今後よりよい広報誌とするため、読者アンケートにご協力ください。
農林水産省のホームページ、広報誌affのサイトから回答できます。



今回取材した地域

特集1 ①長野県松本市（株式会社フラワースピリット）②香川県高松市（香川県農業生産流通課）③千葉県鴨川市（青山フラワーマーケット鴨川・亀田メディカルセンター店）
チャレンジャーズ ④山口県山口市（船方農場グループ）
特集2 ⑤山口県下関市



農林水産省食料安全保障課公式フェイスブック 「海外食料需給インフォメーション」を開設しました

当FBでは、世界各国の穀物などの作付け・生育・収穫・作柄状況など、海外の食料需給に関する情報をご紹介します。また、担当職員が出張先で見聞きた世界食料事情なども折に触れてご紹介いたします。

【インドネシアの稲作、若者も頑張ってます】

インドネシアは、生産量、消費量ともに中国、インドに次いで世界第3位の地位を占める一大産地です。2014年度の米の生産量は、作付面積が増加することから、増加が期待されています。

動画のクローンゴ県は、ジョグジャカルタ近郊にあるインドネシアの代表的な水田地帯です。登場するヌル君は7人家族の長男として懸命に稲作に取り組んでいます。9月下旬に作付けされた水稻は、40日目を迎え、順調に生育中。年末から収穫作業が始まるそうです。この青々とした水田が、黄金色に輝く日が待ち遠しいですね。（2014年11月17日掲載）

【インドネシアで頂いた至福の鮭】

インドネシア大統領も訪れるジャカルタの和食レストランにお邪魔しました。料理長の高井さんは、インドネシアの食材と日本の食材を組み合わせ艶やかな日本料理を作り上げる匠です。また、和食が紹介されるレセプションではブリの解体ショーを披露するなど、日本政府が実施する和食の普及・振興活動にも貢献してくださっています。

この日のメニューはインドネシアの漁船が獲ったインドマグロをお鮭に。お味の方は、言うまでもありませんね。日本人として生まれ、鮭を食べられることに感謝し、無形文化遺産に登録された「和食」を誇りに思った一瞬でした。（2014年11月28日掲載）

好評の
ホットニュースを
2つご紹介！



読者の声

「aff」読者から寄せられた
ご意見やご感想を紹介します。

- ◆再生可能エネルギーで農山漁村が元気になる！素晴らしいです。大いに期待しております。（女性）
- ◆今月号の再生可能エネルギーの中にある小水力発電で地域を再生復活させた記事に大変興味がありました。日本のどこにもあるふる里と呼ばれる風景には豊富な水が流れています、自然を壊すことなく生活に活用するに大賛成です。（男性）
- ◆12月号の特集1の「再生可能エネルギー」は、今話題のテーマです。この記事を読んで、再生可能エネルギーと農山漁村との共生が大切であることを理解できました。（男性）
- ◆素材を無駄なくいただく始末の料理。主婦のみなさんが見習ったら素材の無駄もなく、ゴミの量も少なく大変よいと思いました。（女性）
- ◆「アフ・ラボ」の、リンゴとナシの新品種開発情報は、消費者として大変楽しみで嬉しい情報だと思います。どちらも大人から子どもからも愛される果物ですが、新しい見た目や味で固定しているイメージを払拭し、珍しい輸入果物とも競争でき、また需要の拡大も図れるのではないかと期待いたします。早く会いたい、そんな気持ちです。（女性）

Road to MILANO

～ミラノ万博に向けて～ #1

MAFF TOPICS

開幕まで
3か月弱
ワケワケする～



日本の伝統文化と最先端技術が奇跡のコラボ 建築中の日本館レポート 世界初の「立体木格子」技法がすごい！

5月1日から10月31日まで、イタリア・ミラノで

「2015年ミラノ国際博覧会」が開催されます。

そこで今号から、「Road to MILANO～ミラノ万博に向けて～」と題し、着々と進む準備の様子から開幕後の現地情報まで、毎号詳しく紹介。

第1回は、日本館に採用された世界初の建築技法に迫ります。



日本の建設会社スタッフが現地に赴き、実際の組立作業を行うイタリアの業者を指導

「持続可能性」を体現する素材として立体木格子を採用

「地球に食料を、生命にエネルギーを」をテーマに、約140の国・地域と国際機関が参加する「2015年ミラノ国際博覧会」(ミラノ万博)。多くのパビリオンが現在建設中ですが、なかでも日本館の工事がもっとも進んでおり、先日外観の大きな特徴となる立体木格子の取り付け工事がスタートしました。

この木格子の技術は、法隆寺にも採用されている日本の伝統的な木造建築技術。継手・仕口と呼ばれる木同士を組み合わせることで、「めり込み作用」が生まれ、釘などをほとんど使わずとも、

粘り強く耐震性に優れた構造体になり、「生きている建築」と呼べるものです。

日本館では、ミラノ万博のキーワードのひとつである「持続可能性(サステナビリティ)」を体現する建築素材として、この「立体木格子」を採用することになりました。

国産材を使い、木の文化を発信しつつ、木材ビジネスの足がかりに設計に際しては、この「めり込み作用」を活用するため、高度な構造解析シミュレーションを実施。世界初となる三次元の木格子を作成、まさに伝統と革新が共存する日本館の構築を進めています。

材料となる木材は強度などを考

慮して、岩手県産のカラマツ集成材を使用。これにより、世界に誇る日本の「木の文化」を広く発信するとともに、日本の木材ビジネスの世界展開の足がかりになるとをめざします。

立体木格子の部材は、日本から船便でミラノに運搬。現地でカットや、削りなど最終加工を施した後、イタリアの建築業者によって施工が進められており、3月末の完成を予定しています。



立体木格子の奥行きを活用し、夜間は淡い光でライトアップすることで、いっそう繊細な表情に

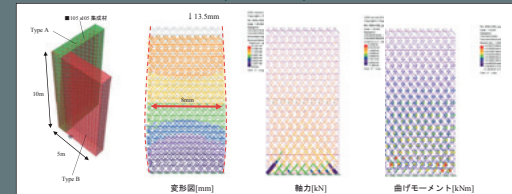
日本の伝統的木造建築物と 最先端技術の融合



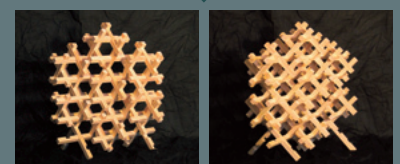
法隆寺五重塔(写真/断面図)



伝統木構造の継手・仕口



日本の伝統建築に見られる構造特性(めり込み作用)活用するための高度な構造解析シミュレーション



東日本大震災の被災地・岩手県産のカラマツ集成材を使用。その数量は約470mにおよぶ

2015年ミラノ国際博覧会
日本館 公式サイト

